

1. 日時 : 7月31日(木)16:00-17:00
2. 出席者数 : 86名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 2014年度第1四半期の石油精製販売事業の経常利益が242億円の赤字となったが、どのような要因によるものか？

A. 石油製品マージンは良化したものの、例年と比べ春期に定期修繕が集中したことによる修繕費等の増加や原油価格上昇による自家使用燃料費・購入原料代の増加が要因として挙げられる。

Q. 第2四半期の主要事業の収益見通しは？

A. 第1四半期から第2四半期に向けて、在庫影響除きの経常利益が130億円から500億円規模に増加する見込みである。

エネルギー事業では、500億円の増益となり、内訳は、石油精製販売事業で400億円、石油化学品事業で100億円を見込んでいる。

・石油精製販売事業では、第1四半期に春季の定期修繕が集中した結果、経費負担が増加したが、第2四半期は第1四半期ほど経費が生じない見込みである。

・石油化学品事業では、第1四半期から第2四半期にかけて、石油化学製品のマージンが改善していることによる増益を見込んでいる。

石油・天然ガス開発事業では、数量減少等の影響で80億円の減益。

なお、金属事業のカセロネスプロジェクトについては、9月に銅精鉱の生産がフル操業になる見込みである。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

(1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化

(2) 法律の改正や規制の強化、

(3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。